福島国際研究教育機構施設の在り方に関するアドバイザリー会議（第４回）議事要旨

日 時：令和6年1月16日（火）16:00～17:55
場 所：中央合同庁舎4号館1214特別会議室
出席委員：上野座長、石井委員、伊藤委員（Web参加）、小堀委員、田中委員、出口委員、牧委員

※事務局より資料１から３を説明したのち、委員から意見を頂戴した。各委員の主な意見は以下のとおり。

・資料３について、これまでの会議における各委員からのコメントの意図を汲みいれ、端的に今後の施設基本計画策定に向けた要点がまとめられている。
・資料３と施設基本計画が、設計や整備をしていく上で、いろいろな手がかりやヒントを与えるものになるので、その意味で非常にいい形になっている。
・資料３に関して、例えば、事業継続性まで考えている事例はあまりないので、そういった新しさやすばらしさを強調して打ち出してもいいのではないか。
・資料３と施設基本計画の紐づけがどうなっているか整理してほしい。
・施設基本計画だけを見てそれが全てというのではなく、ちょっとしたニュアンスの違いもあるので資料３もセットで設計段階に進むようにしていただきたい。
・資料３の「研究開発等環境」の１ポツ目「空間デザインや平面計画とすること」とあるが、平面計画だけではなく断面についても検討するよう追記してほしい。
・資料３の「研究開発等環境」の４ポツ目「大屋根、軒下空間の設置など」とあるが、例えば「主要動線、主要通路に近接した大屋根、軒下空間の設置など」というように追記すれば、これまでの議論と合ってくる。
・資料２の施設基本計画（案）の構成について、おおむね網羅的になってはいるが、例えば「設備インフラ計画」の「排水設備」を「給排水設備」とするなど、そういった落ちがないかをチェックしたほうがよい。
・資料３の「３．環境・サスティナビリティ」について、環境に関しては網羅的に書かれているが、サスティナビリティに関しては意識づけとして、今後の施設の拡張性や更新性についても念頭におくべきではないか。
・資料３の「エネルギー・インフラ」の３ポツ目に関し、水素は燃料で備蓄できるので、構内通路や街灯、非常用など電源が必要な部分に、再生可能エネルギーと併せて水素発電が使えれば、水素の使い方として特徴づけられるのではないか。

・例えば短期、中期、長期ぐらいの時間軸に沿って、どういうプロセスで、どういう施設が整備されるのかといった全体の流れを見取り図的に明確にしておいたほうがよい。

・施設整備はソフト施策との組み合わせが重要になるので、ソフトプログラムとどのように連動していくのかも今後留意してほしい。

・盛土に関して、のり面は緩勾配にすればその分面積が大きくなるので、例えば、散策路にするといったデザインがあってもいいのではないか。
・盛土によって立体的な動線や空間の検討が必要となるが、建築と土木とランドスケープを融合して実現するようなよい提案が設計者から出ることを期待したい。
・ランドスケープと断面計画を適切に検討し、土木と建築、ソフトをまとめて解決することが今回のプロジェクトの大きなコアとなる。その際、敷地を全体的に考えて、バリアフリーや搬出入に配慮しながら、下の空間が暗くなってしまわないようにしつつ、上に行くのが楽しくなるような動線計画ができると、自然と一体となった計画になるのではないか。